

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価	自己評価結果の考察・分析および改善策等	評定	委員の意見	
I 町民 総ぐるみによる 教育の 推進	1 <b>学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。</b> ①地域の物的・人的教育資源の有効活用(各学年:年5回以上) ②保護者との協働による生活リズムの推進	3.0	○「子ども見守り隊連絡会」を、毎月第一火曜日に実施し、意見交換を行った。この中で出たヘルメット等の寄贈が実現。7月終業式、40名の協力隊の方々に来校。感謝の気持ちを伝えることができた。  ○各学年とも年5回以上、地域の物的・人的資源の活用し、地域で学ぶ、地域を学ぶ活動を行えた。  ○健康生活週間を毎月設定し、意識付けを図った。結果を給食時間に放送し、更なる啓発を行った。	3.3	○PTA役員の挨拶運動や地域見守り隊、登下校の立番指導は、素晴らしい取組だと思う。子ども見守り隊の協力は、地域をよく知った方も多く、保護者の安心につながる。子ども見守り隊連絡会は、児童の安全面で大きな働きをしていると思ふ。連絡会でのヘルメット寄贈案の実行がよい。 ○体幹トレ・親子太鼓など新しい取組を高く評価する。 ○ホームページは、子どもがよく利用し、楽しく見ることができている。163件更新するなど積極的発信がよい。インターネットの利用ができない保護者はいないのか。 ●懇談会の出席率向上に努めてほしい。	
	2 <b>家庭や地域の教育力の向上に努める。</b> ①学級懇談会等の充実(年6回) ②家庭・地域との連携による登校指導やあいさつ指導 (PTA登校指導:年3回) ③家庭教育学級の活性化		○学級懇談会の出席率(年平均53%)  ○PTAによる登校指導を6月、9月、1月に実施。年間を通して、登下校中のけが等なかった。  ○家庭教育学級を計画的に実施。夏季休業中に、本校PTA会長による「親子体幹トレーニング教室」、稲田隆志氏による「親子太鼓教室」を実施。12月に無添加の自然素材を使った保湿クリーム作りを実施。			
	3 <b>開かれた学校づくりを推進する。</b> ①学校評価を生かした教育課程の改善 ②積極的な情報発信 ③学校運営協議会の機能を生かした学校運営		○昨年度の評価を基に、組織的な校務分掌・学年運営を実施。(教職員による評価:肯定的回答95%)【参考:平成30年度100%】教職員による評価を7月と11月に実施し、その結果を基に校務部会で話し合い、改善を生かした。 ※児童・保護者へのアンケートは11月に実施し、2学期末の職員会で課題に対する対策等について話し合った。  ○学校便りを地域や保護者に毎月1回発行。ホームページでの情報発信に努め、令和元年に入り163の記事を掲載(11月10日現在)。カウンタも6万件を超えている。緊急時には、安心メールを活用して速やかに情報を発信し、保護者と情報を共有。  ○12月に学校運営協議会を実施。児童、保護者へのアンケートを分析し、課題とされた「信頼される学校」等を柱として、意見交換をしたり、地域学校協働活動の充実についても熟議を行ったりした。			
II 生きる 基盤を 育む 教育の 推進	1 <b>確かな学力を育む教育を推進する。</b> ①基礎的・基本的な内容の確実な定着 ②ICTの活用と研修の充実 ③外国語専科とALTの積極的な活用 ④話を聞く態度の育成(立腰指導の重視) ⑤ファミリー読書の推進(ファミリー読書カードの活用、町立図書館との連携等) ⑥読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施	3.3	○基礎・基本の確実な定着を図るため、各学年・学級で「学びの時間」を計画的に実施。専科等教員も加わり、個別指導の充実。  ○電子黒板とデジタル教科書を活用し、視覚的・聴覚的な支援が図られた授業を実施。  ○外国語専科教員とALTによる外国語活動の授業が充実し、児童の外国語への興味関心が向上。  ○「立腰指導」の充実。「立腰」の継続に課題あり。集会時や授業時間に根強く指導。  ○読書に関しては、学年部ごとの目標冊数(チャレンジ5!月平均一人5冊)に取り組んだ。多読賞として表彰、意欲付けを図った。図書室の内装のモデルチェンジが実現した。  ○読み聞かせグループ「あけぼの会」による読み聞かせを6回実施した。	3.6	○基礎・基本を徹底して指導していると感じた。 ○授業改善に取り組んでいる姿が伺える。 ○学力向上プロジェクトチームの設置、取組を評価する。 ○小学生の頃からLGBT等に関する教育がされるのは素晴らしい。 ○健やかな体を育む努力がなされていることを高く評価する。 ○特別支援教育に関しては、他機関との連携が図られている。 ●外国語活動の状況が気になる。 ●結果の報告のみで、方策・手立てに対しての考察・分析不足が感じられる。	
	2 <b>豊かな心を育む教育を推進する。</b> ①教育相談アンケート(毎月)によるいじめ等の早期発見と解決 ②えがお推進委員会(毎月)による児童の共通理解と共通実践 ③ボランティア活動の推進 ④人権教育担当や道徳教育推進教師を中心に、豊かな心を育む授業実践と教職員の人権感覚を育むための研修の充実		○問題行動が発生した場合は、迅速に「報告」「連絡」「相談」の実施。事案によっては内容を整理し、共通理解を図る。また、問題行動を未然に防ぐために、校内放送を活用し啓発した。  ○教育相談を毎月実施。児童の困り感を担任が把握する機会にしている。その困り感に対して、関係職員が早急に対応したり、えがお推進委員会等で共有。現在のところ、大きな問題は起きていない。  ○5年生によるあいさつ運動や毎週火曜日のあいさつ運動を実施。また、PTAのあいさつ応援隊の協力も得ている。  ○人権教育に関する研修(LGBT等に関する研修)を実施した。また、地域に授業を公開している。			
	3 <b>健やかな体を育む教育を推進する。</b> ①体力向上プランに基づく個や集団に応じた体力づくりを実施 ②食に関する指導の推進(弁当の日) ③「早寝、早起き、朝ご飯」の実践と生活習慣の確立 ④保健・安全指導の推進 ⑤年間指導計画に沿った、性教育や薬物乱用防止教室、安全点検の実施及び日常的な保健・安全指導の実施		○体育学習の充実(教職員による評価:肯定的回答95%)。体力テストを実施し、実態を把握。体力向上プランを作成し、改善が必要な領域への指導。水泳指導時には、学級担任以外の教職員も指導を実施。  ○5月と10月の遠足に合わせて、「弁当の日」を実施。保護者とともにメニューを考えたり、自分で作ったりするなどして食への関心を高めた。  ○学校給食試食会を実施し、20名を超える保護者の参加。  ○毎月安全点検を実施し、改善が必要なものについては教育委員会へ修理を依頼し、随時改善。			3.5
	4 <b>共生社会を目指す特別支援教育を推進する。</b> ①児童一人一人の教育的ニーズの把握とその可能性を最大限に伸ばすための教育の推進		○特別支援学級の児童一人一人のニーズに応じるために、毎日保護者と連絡帳を通しての連携。夏季休業中に保護者との個人面談の実施。 ○1学期中に、幼稚園・保育所へ出向き、就学時に参考となる情報を共有。			
III 職自 業立 人し をた 育社 会教 育の 推進	1 <b>ふるさと川南に学び、誇りや愛着を育む教育を推進する。</b> ①ふるさと学習の実施(秋季大運動会での川小音頭) ②ボランティア活動、あいさつ運動の推進	3.5	○運動会での川南音頭(川小音頭)の発表に向けて、夏季休業中に実技研修を実施。運動会当日に向けて児童へ指導。  ○JRC委員会が軽トラ市で募金活動を実施。  ○儀式行事等の場で町歌の斉唱を行った。	3.7	○ふるさと川南を学ぶ取組が素晴らしい。地域の方々を講師に招き、よのなか教室を実施するなど、質の高いキャリア教育を実施している。	
	2 <b>キャリア教育を推進する。</b> ①キャリア教育に係る諸活動の実践と年間指導計画の見直し(全学年での体験学習の実施) ②11月17日(日)のふれあい参観日、9つのブースで職業講話「よのなか教室」を実施。 ③1月24日(金)の参観日において、宮崎県キャリア教育統括コーディネーターである水永正憲氏を迎え、教育講演会を実施。(5・6年生児童及び保護者)		○キャリア教育週間(6月3日～7日)を設定し、地域の方々による講話の実施。 3年:社会科「市の様子」講師:川南遠原を守る会 松浦勝次郎様 4年:総合的な学習の時間「福祉って何だろう」講師:福寿園施設長 押川 英文様 ※他の学年も実施。  ○11月17日(日)のふれあい参観日、9つのブースで職業講話「よのなか教室」を実施。  ○1月24日(金)の参観日において、宮崎県キャリア教育統括コーディネーターである水永正憲氏を迎え、教育講演会を実施。(5・6年生児童及び保護者)			
IV 魅力 ある 教育 を支 える 体制 や 環境 の 整備 、 充実	1 <b>教職員の資質向上に努める。</b> ①授業研究を核とした校内外の研修、OJTの推進 ②勤務規律の徹底(年2回以上のコンプライアンス研修と適時啓発)	3.1	○「全国学テ(6年)や「みやざき学テ」の問題を全職員で採点、分析。児童の実態を把握。本校の課題を共有、対策を考え実施した。読解力に課題あり。  ○1人1授業、相互参観授業を2学期から3学期にかけて実施。互いの授業を見合うことで授業力の改善に努めた。  ○コンプライアンス研修では、チェックシートで自身の行動を振り返ったり、事例をもとに協議したりすることで意識の向上を図った。現段階で問題なし。2学期は、事例をもとにガイドライン遵守の重要性等について研修を実施した。	3.4	○研修を数回行うことで、教職員の資質向上を図っており、意識の高さが感じられた。 ○全国学テを全職員で採点・分析、実態を把握し、共有していること、一人一授業を実施し授業力向上を図っていることを評価する。 ○コンプライアンス研修や災害・緊急時の訓練などは必要であり、今後も定期的な取組が必要である。 ●保護者と交流の機会を増やし、対話のできる環境を作る必要がある。	
	2 <b>学校における安全、安心の確保に努める。</b> ①危機管理マニュアルの見直しと職員研修の充実 ②校内外の安全点検と防災教育の充実		○年度当初に避難経路を確認。風水害に関する模擬避難訓練を実施。廊下歩行などについて動画を視聴。安全への意識を高めた。  ○夏季休業中に、高鍋警察署のスクールサポーター(桂俊行氏)を外部講師に招き、不審者対応の職員研修を実施。それを生かし、2学期に不審者侵入を想定した避難訓練を実施。職員会で、課題や対策について話し合いを行った。東児湯消防組合の協力のもと、火災に関する避難訓練を実施。2月には、地震に関する避難訓練(ぬきうち)を実施する。災害等から「生きぬく力」の育成に努める。			